



【多田光義氏】



【まつぼっくり灯台を  
組み立てる子ども達】

## 「我ら、灯台BUILDERS!」

日本で初めて西洋式灯台が起工されてから150年を記念し、10月8日(月祝)に「まつぼっくりで灯台をつくろう」を開催しました。当日は、10分の1サイズの石狩灯台の作成と点灯式が行われました。実は、このイベントの開催までに試作品の作成や準備などボランティアさんの並々ならぬ努力があったのです。

まず、高さ20分の1のマツカサ灯台の試作をしてみると、なかなかプリティーな感じで「いける!」と思いました。しかし、10分の1の高さの灯台制作にかかってみると体積は8倍、外側に積み重ねるマツカサは8倍となりましたが、マツカサ1個の大きさは変わらないのでマツカサリングを作る人手と時間は更に大きくなってしまいました。それでも灯台イベント当日までに完成しようと、子どもも大人も力を合わせて約1.6mの灯台を完成させました。みんなの歌声の中を、回転灯が周りを照らしました。(多田光義・自然案内人)

## 冬のイベント情報

保護センターは閉館してるけど他のイベントに出展してます! 遊びに来てね!

### 第8回 科学の祭典in石狩

「海浜植物  
～タネのふしぎをみてみよう～」  
日時:12月9日(日)10時～15時  
場所:こども未来館あいぼーと

### CISEサイエンスフェスティバル

博物館ひろば  
「海浜植物～タネのふしぎをみてみよう～」  
日時:2019年1月13日(日)・14(月祝)  
10時～15時  
場所:北大総合博物館1階S105知の交流他



## ふりかえりカレンダー

今年の石狩海浜植物保護センター(以降、保護センター)主催の活動をふり返ります。(はまなすフェスティバル実行委員会主催活動含む)



29日(日) 開館  
【企画展】「石狩浜の花ごよみ2017」



5日(土) 春の子どもカシワまつり  
13日(日) 第6回はまなすセミナー  
「生活文化史にみるハマナス～食用、薬用、香料～」  
講師:フリーライター 伊藤由起子氏  
26日・27日(土日) 自然案内人養成講座



16日(土) 第6回はまなすフェスティバル



26日(木)～8月19日(日) 夏休みクラフト教室  
29日(日) 流木で鳥を作ろう・ネイチャーゲームあそび  
【企画展】白鳥さんの「石狩浜マクロ散歩」  
【企画展】「石狩浜学習新聞(石狩小学校)」



4日(土) 砂の中のお宝探し  
7日(火) 科学の祭典in北海道2018  
11日・12日(土日) ふるさと海辺フォーラム  
開催地:静岡県浜松市  
19日(日) ハマニンニクを編む

【ハマニンニクで編んだ小さこ】



23日(日祝) はまなす広場  
【企画展】「第6回いしかり海辺の自然  
フォトコンテスト」作品展示



8日(月祝) まつぼっくりで灯台をつくろう  
【企画展】「石狩灯台古今灯台」  
【企画展】「たくましく生きるかれんな花たち」



3日(土) 冬季閉館

## 写真展「たくましく生きるかれんな花たち」開催に寄せて

この写真展は、石狩浜の海浜植物保護活動に四半世紀にわたり尽力された故阿部義孝先生を偲び、10月11日(木)～11月3日(土)に石狩海浜植物保護センターで開催しました。阿部先生は、2000年の保護センターオープンにあたり、多大な力を注がれました。たくさんのボランティアさんの陣頭指揮をとりながら海浜植物の播種・育成試験に尽力され、保護センター事業に助言いただくとともに、100点以上の海浜植物の写真を保護センターへ寄贈いただきました。いずれも、誰よりもたくさん足を運び、愛情持って植物に接する阿部先生だからこその写真です。阿部先生は、砂の上に強くたくましく可憐に生きる花たちをいつも愛でておられました。今回の写真展では、そんな花たちの写真を集めました。スペースの関係上、展示できなかった写真が他にもたくさんあります。来年以降も、少しずつでも紹介できればと思います。(内藤華子・普及員)



【子どもカシワまつり・カシワのコースター作り】



【自然案内人養成講座  
野外での植物観察の様子】



【自然案内人養成講座  
産学で石狩海岸の環境に  
関する様子を学ぶ】



【JMEEキッズクラブの子ども達によるお手紙のペンキ  
塗り/ハマナスの種の選り分けと洗浄】



【Healthyタイム原簿作業の様子】



【流木で鳥を作ろう-自分の作品を持ってパテリ!】



【10月8日から開催した「石狩灯台古今灯台」(協力花野 廣)企画展の様子-左  
側は石狩灯台の実物の歴史/右側2面は珍しい石狩灯台内部の写真など】

石狩海浜植物保護センター(事業受託団体NPO法人いしかり海辺ファンクラブ)  
●開館期間4/29～11/3 ●開館時間9:00～17:00  
●毎火曜定休(祝日の場合翌日休)  
●〒061-3372 石狩市弁天町48-1  
●TEL011-33-60-6107 (冬季閉館期間01133-72-3269 環境保全課内)  
●E-mail: iufc.office@gmail.com  
●HP: <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/site/kaihinsyokubutu/index.html>



### 定期開催

Healthyタイム・Mottoタイム  
ハマナス再生圃の除草や移植作業  
をお手伝い頂きました。5月～10  
月までの期間全10回開催。

### 随時

海辺の植物ウォッチング  
普及員による観察圃を利用し  
た季節の植物観察を行いました。  
毎月1回土曜日に開催。

### 環境学習支援

石狩市内小中学校及び認定  
こども園の環境学習支援を  
行いました。全6校1園12回。

保護センター  
普及員とボランティ  
アさんの活動紹介は  
中面で!

# 石狩浜海浜植物保護センター活動報告2018

## 館内展示

解りやすく、楽しい展示を目指して！

普及員になって2年目。今年は展示の方も担当させていただきました。自分で言うのもなんですが、貼りバネ(糊が付いた厚みのあるパネルに印刷物を貼りPOPを作ること)の腕がどんどん上がっていき「ハリバネのゆみさん」と呼ばれる日も近いのではと思われま。来年も保護センターに来ていただいた来館者の方に、伝えたい事を解りやすく、見ていて楽しい展示を目指したいです。展示の前で立ち止まったり、数人で指差しながら話している来館者の方を見ると、とても嬉しいです。(石川祐美・普及員)



【キタアカシジミの生態を解りやすく展示】



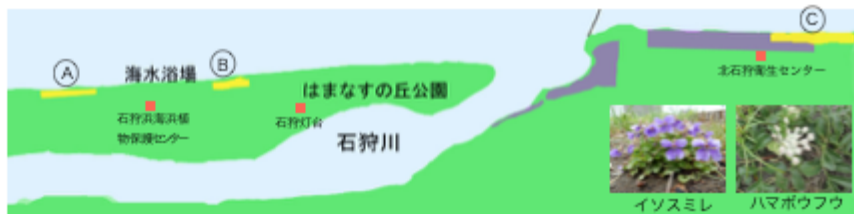
【毎月変わる観察園の看板と常設展示にも工夫】

## 調査活動

イソスミレとハマボウフウの調査を行いました！ 今年、イソスミレとハマボウフウの生育状況調査に取り組みました。5月、石狩川河口右岸のイソスミレの生育を確かめるために、延べ25名で約18haの海浜草原を踏査しました。結果は、イソスミレを発見できず。石狩川河口右岸地区での生育は不明なままとなりました。6～7月、ハマボウフウの保全状況の異なる地区ごとの生育状況を把握するため、聚富(約2.3ha)、弁天(約1ha)、親船(約1ha)に延べ12名で調査に入りました。調査エリアに生育するハマボウフウを、3つの状態(花有り、花無し、幼少)に分けて株数をカウントしました。すると、密度は、①弁天②親船③聚富、花有り株の割合は、①親船②弁天③聚富、幼少株の割合は、①弁天②聚富③親船の順に多くなっていました。これらの結果が意味することは？詳しくは、報告書をお待ち下さい。(内藤華子・普及員)

### 【イソスミレとハマボウフウの調査エリア】

\*灰色:イソスミレ踏査エリア  
\*黄色:ハマボウフウ踏査エリア  
(A.親船地区、B.弁天地区、C.聚富地区)



イソスミレ ハマボウフウ

## 環境学習支援

初めて経験した屋内での授業 今年度初めての経験として、天候の関係で中止した野外学習を小学校の体育館での屋内学習に振り替えました。野外学習で歩く予定だったのはまなすの丘公園のコースを動画で事前に撮影し、子どもが実際に観察している様に感じられる工夫をしました。動画を見ながらフィールドビンゴをしました。また、中学校の学習支援では、ハマナスの活用に花びらを使ったシロップ作りをしました。その活用と香りの良さに生徒が感心していたので良かったと思えました。

子どもからの質問にピンチ！ 石狩灯台ができた頃は、その近くまで海だったけれど、石狩川が運んできた土や砂で陸地がのびていった話をした時の事です。「この川はどうして大きいのか？」「この川はどうして濁っているのか？」という質問をされました。普段、近くに川がなければ、川がどうして流れているのか、雨が降ったら水の量が増え、まわりの土砂を削って運んでいくのを見てないと思うので、どう話したら分かってもらえるんだろうかと悩みながら答えました。(成田一彦・普及員)

## 子ども向けイベント

子どもたちに発見と楽しさを！ 今年も夏休み期間中は毎日、無料でクラブを体験できる様に準備をしました。他にも夏休み中は特別プログラムを開催したり、秋はまつぼっくりで灯台を作ったりと、親子で参加できるイベントを多く開催しました。いつも思うのは、子どもたちの集中力は素晴らしい！という事です。クラブを作る時、初めは何を作って良いのか分からない様子の子どもが、アイデアが浮かんだ途端、目をキラキラさせて一直線にゴールに向かって行く様は見ているこちらが感動します。来年もたくさんの子どもたちが遊びに来てくれるのを楽しみにしています。(石山優子・普及員)



【流木で鳥を作るう作成風景】



【砂の中からお宝探し】



【まつぼっくり灯台作成中】

## ボランティア活動 [石狩浜定期観察の会]

何度行っても飽きる事のない石狩の自然の素晴らしさ 今年4月18日～10月31日の第1・3・5水曜日、計16回の観察を実施しました(内3回は雨天)。一般参加者は延べ57名(3.6人/回)で、リピーターが6名程いました。会員(6名)を含めると1年で延べ147名が参加、賑やかな活動になりました。はまなすの丘公園にある東屋のそばのポプラが増え林になってきたので、森林性のミヤマカケス、ルリビタキ、メジロ、ミソサザイ、キクイタダキが春に観察され、今までにないことでした。また、幼鳥を含むオジロワシの3-4羽の群れの飛翔が複数回見られ、近隣で繁殖した親子の姿と思われます。夏から秋にかけてウンランの花が目立ち、何ヶ所か群落が形成されてきています。はまなすの丘公園の観察ルートは毎年同じでも、繰り広げられる自然のドラマは毎年違うので、飽きることはありません。(安田秀子・定期観察の会代表)

### 【他にも協力頂いています！】

はまなすの丘公園の植物の開花情報を「花砂丘仕事人」の寒河江洋一郎氏が提供下さっています。年間を通した開花情報が一目で分かる展示になっています。木道からは見えない保護地区内の景色も写真で紹介下さっています。



【はまなすの丘公園内で見つけた動植物の写真】【ビジターセンター2階の展示】

## ハマナス再生園

ハマナスいっぱいの再生園を目指して！ 環境学習の場としての活用や、ハマナスを利用した地域ブランド品の製造は、例年通り活発に行うことができました。また、月1回のHealthyタイムに加え、Mottoタイムとして新たにボランティアさんの再生作業への協力機会を増やし、多くの方に参加して頂きました。今年特に力を入れたのは、利用できる花弁や実の量をできるだけ早く増やすための勢力ある苗の育成です。32cm角の大鉢で育苗し、大きな苗にして秋に再生園へ植え込みました。ほぼ目的通りの苗が育成できたので、来年が楽しみです。(石井滋朗・普及員)

学ぶ・くつろぐ・発見する観察園へ！ 砂丘の植物の生態をよりわかりやすく伝えるため、区画ごとに新たに設けたテーマに沿って植物の配置換えをしました。外来雑草で覆われていたエリアは根元から除草を行い、木陰でゆっくり休めるテラスや散策できる小径として活用できるように整備を進めています。館内展示で石狩浜の自然について学んだ後は、海辺の植物をギュッと詰め込んだ観察園で、実際の植物の手触りや匂い、季節ごとに移り変わる海岸草原の表情を感じていただきたいと思います。7月から9月にかけては、お試し企画として「観察園レンジャー」を行いました。来館者自らが見つけたモノ・コトに看板を立て、みんなで発見を共有しようという試みです。来年からはシーズンを通して「みつけた！」を集めます。生き物探しが得意な子ども達、草むら遊びが恋しくなってきた大人のみなさん、観察園と一緒に探検しませんか？(山田織江・普及員)



【中学生による苗の移植】



【育苗期間が同じでも、大鉢の方が大きく育つ】



【前年大鉢で育てた苗を再生園に移植】

## 観察園



【「みつけた！」看板】 【(手前から奥に)砂浜からカシワ林にかけて生育する植物を配置した区画】